

第一期 未来創造塾

大分都市広域圏



大分都市広域圏 政策研究チーム「第1期未来創造塾」

2021 政策提案報告書

取組期間 令和元年6月10日～令和3年3月31日

人と地域を未来につなぐ大分都市広域圏

～温泉や南蛮文化など多彩な地域資源を活かした創造都市圏を目指して～

目 次

■ 本 編

- P. 1 ~はじめに~ 連携中枢都市圏構想について
・「連携中枢都市圏構想」の概要について
- P. 2 ~はじめに~ 大分都市広域圏の形成
・「大分都市広域圏」の概要について
- P. 3 大分都市広域圏政策研究チーム「第1期未来創造塾」
・「未来創造塾」の構成について
・「第1期未来創造塾」開講式
・第1回「未来創造塾」会議の開催
- P. 5 「未来創造塾」活動経過
・「第1期未来創造塾」活動経過（令和元年7月～令和元年9月）
・令和元年度大分都市広域圏推進会議で中間報告
（令和元年10月28日）
・別府市長による講和と意見交換会 （令和元年11月19日）
・明治大学 木村教授による講演 （令和2年2月13日）
・日本文理大学 吉村教授による講演 （令和2年2月26日）
・「第1期未来創造塾」活動経過（令和2年3月～令和2年9月）
- P. 11 令和2年度の大分都市広域圏推進会議で政策提案
（令和2年11月26日）
・Aチーム政策提案「子育て世帯への情報発信」
「企業誘致に関する情報発信」
・Bチーム政策提案「広域的な移動手段の確保」
「病児・病後児保育に係る
提供体制の維持について」
- P. 21 各市町の首長によるコメント

■ 資 料 編

- P. 23 大分合同新聞掲載記事
- P. 25 「第1期未来創造塾」かわら版（創刊～第11回）
- P. 28 「第1期未来創造塾」塾生名簿（令和2年4月1日時点）
- P. 29 Aチーム Team SALUD（チームサルー）プロフィール
- P. 30 Bチーム Livab LAB0（リバブラボ）プロフィール
- P. 31 「第1期未来創造塾」を振り返って
- P. 33 大分都市広域圏ホームページ
- P. 34 大分都市広域圏政策研究チーム「未来創造塾」設置要綱

～はじめに～

連携中枢都市圏構想について

● 平成26年5月 地方自治法の改正により「新たな広域連携」の制度を創設

人口減少・少子高齢社会にあっても、地域を活性化し経済を持続可能なものとし、国民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようにするために、地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」を行うことにより、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成する政策として国が提唱しています。

この制度は第30次地方制度調査会「大都市制度の改革及び基礎自治体の行政サービス提供体制に関する答申」を踏まえて制度化したものであり、大分都市広域圏は2016（平成28）年3月に全国で10番目の圏域として形成されており、2020（令和2）年4月1日現在では、全国で34の圏域が形成されています。

「連携中枢都市圏構想」の概要について

● 令和2年4月時点で、全国で34圏域が形成されている。

連携中枢都市圏の取組の推進

連携中枢都市圏の意義とは

- 地域において、相当の規模と中核性を備える圏域において市町村が連携し、コンパクト化とネットワーク化により、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成

連携中枢都市圏に何が求められているのか

- ① 圏域全体の経済成長のけん引
産学官の共同研究・新製品開発支援、六次産業化支援 等
- ② 高次の都市機能の集積・強化
高度医療の提供体制の充実、高等教育・研究開発の環境整備 等
- ③ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上
地域医療確保のための病院群輪番制の充実、
地域公共交通ネットワークの形成 等

連携中枢都市圏をいかに実現するか

- 地方自治法を改正し、地方公共団体間の柔軟な連携を可能とする「連携協約」の制度を導入（平成26年11月1日施行）
- 平成26年度から、連携中枢都市圏の形成等を推進するため、国費により支援
- 平成27年度から、地方交付税措置を講じて全国展開

➤ 連携中枢都市圏形成のための手続き

連携中枢
都市宣言

連携協約
の締結

都市圏ビジョン
の策定

令和2年4月1日現在、
36市（34圏域）が連携中枢都市圏を形成
（近隣市町村を含めた延べ市町村数：325）



【連携中枢都市圏とは】

地方圏において、昼夜間人口比率おおむね1以上の指定都市・中核市と、社会的、経済的に一体性を有する近隣市町村とで形成する都市圏

※ただし、隣接する2つの市（各市が昼夜間人口比率1以上かつ人口10万人程度以上の市）の人口の合計が20万人を超え、かつ、双方が概ね1時間以内の交通圏にある場合において、これらの市と社会的、経済的に一体性を有する近隣市町村とで形成する都市圏についても、連携中枢都市圏と同等の取組が見込まれる場合においては、これに該当するものとする。

出典：総務省ホームページ

～はじめに～

大分都市広域圏の形成

国の「連携中枢都市圏構想」に沿い、大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町の7市1町は、大分市を圏域の中心市として、2016（平成28）年3月、新たに「大分都市広域圏」を形成し、これまで「大分都市広域圏観光PR事業」や「おおいた公共施設案内・予約システムの運用」等、様々な広域連携事業を実施してきました。

「大分都市広域圏」の概要について

- 【名 称】 大分都市広域圏
- 【構成市町】 大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市
豊後大野市、由布市、日出町（7市1町）
- 【人 口】 778,237人（平成27年の国勢調査人口による）
- 【計 画】 大分都市広域圏ビジョン（大分都市広域圏経済戦略）
- 【取組期間】 2016（平成28）年4月

～

2021（令和3）年3月 の5年間

- ※ 2021（令和3）年4月から2026（令和8）年3月までの
新たな5年間の計画として、「第2期大分都市広域圏ビジョン」
を令和3年3月に策定した。



大分都市広域圏の取組

圏域形成に至った経緯

- ・大分市の周辺市町である別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町の7市1町で、人口減少社会においても有機的な連携による活性化を図る目的で、各市町が単独では解決できない課題等について協議を行った。
- ・総務省「新たな広域連携モデル構築事業」モデル都市に選定され、大分都市広域圏推進会議等で協議を重ねて、平成28年3月に連携する7市1町と連携協約の締結及び大分都市広域圏ビジョンの策定を行った。

今後の展開

- ・引き続き各専門部会で協議し新規事業の構築や既存事業のブラッシュアップを行っていくとともに、実績の少ない取組項目については、連携市町と積極的に協議を行っていく中で事業の掘り起しを進めていく。
- ・31連携事業のフォローアップとさらなる推進を実施し、KPIの達成に向けて取り組みを進める。
- ・「大分都市広域圏ビジョン」(取組期間:平成28年4月～令和3年3月)について、次期ビジョンの策定(取組期間:令和3年4月～令和8年3月)に向けて、令和2年度中に改定作業を行う予定である。



圏域全体の経済成長のけん引

歩行者天国実施事業

大分駅北側を南北に走る市道を歩行者天国として活用し、イベント等の開催や、連携市町の観光情報等のPRや特産品等の販売を行うブースを設置することにより圏域の情報発信を行った。

【令和元年度3回実施 来場者数約76,000人】



大分都市広域圏観光PR事業

大都市圏で開催する観光物産展において大分都市広域圏の各自治体と連携し、観光資源や物産品のPR等を実施することにより大分都市広域圏の情報発信と誘客促進を図る。

【令和元年8月JR新宿駅西ロイイベント広場で「おおいた観光物産展」を2日間開催 来場者約32,000人】



【おおいた観光物産展】

高次の都市機能の集積・強化

災害時受援計画策定事業

災害時受援計画等に関する防災の取組状況を共有。

圏域全体の生活関連機能サービスの向上

おおいた公共施設案内・予約システムの運用

利用者の利便性の向上を図るため、圏域内の体育・文化施設等を相互に利用できるよう公共施設案内・予約システムを導入した。令和2年4月時点、圏域全体で体育施設67箇所、文化施設等30箇所が登録されており、相互利用を行っている。



消防指令業務の共同運用

県下最大規模の消防本部を有する大分市が中心となり、消防指令業務の共同運用を行うことで消防指令設備・運用に係る財政・人員負担の軽減、災害情報・活動情報の一元管理による相互応援の迅速化等、住民の安全・安心の確保を目指すもの。大分都市広域圏連携市町の他、10市町村を加えた全県1区で、令和6年4月の共同運用開始に向けて準備を進めている。



【消防通信指令センター】

一般廃棄物処理施設(新環境センター)整備事業

大分市が予定する新たな一般廃棄物処理施設(新環境センター)の整備について、圏域6市から構成される専門部会を設置し、平成29年度から広域処理に向けて検討をはじめ、令和9年度中の稼働開始を目指す。

出典：総務省ホームページ

大分都市広域圏 政策研究チーム「第1期未来創造塾」

「大分都市広域圏ビジョン」に掲げる「人材育成・交流」事業として、圏域で抱える課題について自主的に調査・研究を行い、課題解決に向けた施策の提案を行うこと、また、これにより圏域の将来を担う人材の育成を目的とし、政策研究チーム「第1期未来創造塾」を令和元年6月に立ち上げました。

「未来創造塾」の構成について

- 【対象職員】 概ね35歳以下の職員
- 【構成人員】 大分都市広域圏の連携市町全体で16名（各市町2名ずつ選出）
- 【所掌事務】 若手職員による政策研究チームが圏域で抱える広域的な課題や全国の先進的な取組について、自主的に調査・研究を行い、その課題解決に向けた事業提案を行う。
※ なお、首長が出席する大分都市広域圏推進会議において提案事業が採択された場合、連携市町の担当部局において事業の実施に向けた取組を推進する。
- 【塾生任期】 令和元年6月～令和3年3月末日（2年を1期間とする）
- 【チーム編成】 大分都市広域圏の連携市町全体で2チーム



16名 による「第1期未来創造塾」がついに開講！

「第1期未来創造塾」開講式（令和元年6月10日）

令和元年6月10日、大分市役所で大分都市広域圏推進会議の会長である佐藤樹一郎大分市長の開講宣言のもと、塾長（大分市企画課長 小野晃正）と7市1町の16名の塾生で構成される「第1期未来創造塾」が開講しました。

開講式では、塾生代表で豊後大野市の尾石さんが塾生の辞令を受けとり、その後、大分市の津田さんが未来創造塾の塾生として、今後2年間に向けた力強い決意表明を行いました。



大分都市広域圏 政策研究チーム「第1期未来創造塾」開講式



大分市長から辞令を受け取る
尾石さん（豊後大野市）



決意表明を述べる
津田さん（大分市）



開講宣言をする大分市長

第1回「未来創造塾」会議の開催（令和元年6月10日）

開講式の後、さっそく第1回目の未来創造塾を開催しました。

今回は、初回であるため、塾長から大分都市広域圏の形成などについて講話をもらい、その他事務局からの説明等の後、2年間ともに調査・研究するチームに分かれて自己紹介を行いました。その後、塾生の皆さんで意見交換会（交流会）を行いました。



塾長（大分市企画課長）による講話



塾長の講話を聴く塾生

各チームのリーダーは、**Aチームは竹田市の舞さん**、**Bチームは日出町の財津さん**に決定。

次回の会議の日程や研究テーマの決定方法などについてリーダーを中心として約2時間の協議を行いました。



竹田市 舞リーダー

これから約2年間、若手ならではの積極的な行動と自由な想像力を十分に生かして、大分都市広域圏の広域的な課題解決に向けて、ともに頑張っていきましょう！！



日出町 財津リーダー



大分市長と記念撮影

「未来創造塾」活動経過

《 調査研究の進め方 》

- ・ 月 1 回程度集合し、会議を行う。
- ・ 日時や場所等は、業務の都合に合わせ、塾生が決める（塾生同士の主体的な集まり）。
- ・ 事務局（大分市企画課）は、2 カ月に 1 回程度、進捗状況の管理を行う。
- ・ 会議開催後、すみやかに報告書をまとめ事務局に提出する。

「第 1 期未来創造塾」活動経過（令和元年 7 月～令和元年 9 月）

● 調査研究テーマの方向性を決める

塾生が自分で考えた研究テーマをプレゼンテーションし、チーム内でその事業について質疑応答を行い、最終的に各チームで研究テーマの大きな枠組みを決定しました。圏域で抱える広域的な課題の解決に向けて、まずは研究テーマに沿って、各市町の現状把握と調査分析をしていくことになりました。



A チーム（Team SALUD）の会議の様子



B チーム（LivabLABO）の会議の様子

● 各チームの名称が決まる！！

Aチームの名称は「**Team SALUD**」（チームサルー）に決定

“Salud（サルー）”とは、スペイン語で「健康」を意味する単語です。また転じて、お酒を飲む人の健康を祝して「乾杯」の掛け声に用いられます。物事の始まりにおこなう乾杯の掛け声が「健康」を指していること、また高崎山の猿（サル）とも掛けて、大分の明るい未来を願ってこのチーム名を付けました。

Bチームの名称は「**LivabLABO**」（リバブラボ）に決定

livable（住みよい）+laboratory（研究所）=LivabLABO

という造語です。住民目線に立ち、より住みよい大分都市広域圏になるような政策を研究していきたい、という思いが込められています。

「第1期未来創造塾」活動経過（令和元年7月～令和元年9月）

● 圏域内の自治体で会議を開催！！

月1回の定例会議を竹田市・由布市・日出町など、圏域内の各自治体で開催しました。

普段とは異なる環境下において、様々な発想や自由闊達な意見交換が行われ、充実した研究活動となりました。

会議後は、ランチ交流を通じて、塾生間の絆がさらに深まりました。



日出町での会議の様子



竹田市での会議の様子

令和元年度 大分都市広域圏推進会議で中間報告（令和元年10月28日）

令和元年10月28日に開催された各市町が集まる首長会議の中で、各チームのリーダーがテーマ設定などについて中間報告を行いました。また、令和2年度の政策提案に向けたスケジュールが示されました。

【会 議 名】 令和元年度 大分都市広域圏推進会議

【開 催 日】 令和元年10月28日（月）10時30分～

【開催場所】 ホテル日航大分オアシスタワー 21階 エトワール



Aチーム（Team SALUD） 竹田市の舞リーダー



Bチーム（LivabLABO） 日出町の財津リーダー

● 中間報告の資料

大分都市広域圏 未来創造塾中間報告書

Aチーム【 Team SALUD(チーム サルー) 】

チーム名について

- ・Team SALUD(チーム サルー)
- ・“Salud(サルー)”とは、スペイン語で「健康」を意味する単語です。また転じて、お酒を飲む人の健康を祝して「乾杯」の掛け声に用いられます。物事の始まりにおこなう乾杯の掛け声が「健康」を指していること、また高崎山の猿(サル)とも掛けて、大分の明るい未来を願ってこのチーム名を付けました。

研究テーマについて

当初、我々のチームでは、企業誘致、高齢者施策、子育て支援施策の3つのテーマについて研究していこうと考えました。しかしながら、これまでの計5回の会議で各市町の現状や事業を洗い出していく中で、あらためて各分野のボリュームが多いこと、そしてそれぞれ課題が山積していることに気付かされ、限られた時間で実効性のある事業提案へ結び付けていくためにも次の2点に絞りました。

テーマ①：企業誘致について

自治体における企業誘致と言うと、どうしても自治体間競争のようになりがちです。大分都市広域圏においては、広域都市圏として今までにない方法を探っていくのではないかと考えました。これから研究をしていくのですが、例えば、いずれかの市町に企業が拠点を置いたとして、周辺市町も通勤圏内であるため居住地域として、また休日の出掛先として設置当初より役割分担できるなど、大分都市広域圏構成市町いずれも、定住人口または交流人口のいずれかが増加して全体で発展していけるような在り方を模索します。

テーマ②：子どもに関すること(子育て支援施策)について

当塾の名にも冠しております「未来」を担う子ども達に焦点を当てたいと考えました。加えて、子どもに焦点を当てることは、地域社会・地域経済を今まさに現在進行形で主に支えている現役世代を支援することにも繋がります。現在、「子育て世帯向けの情報プラットフォーム整備」や「児童虐待に対する取組み」等がチーム内で議論されましたが、子どもを取り巻く環境を、そして子育て世帯の現状をより良く出来るような事業提案を目指します。

チーム構成員

明石 剣斗(由布市) 小代 洋介(豊後大野市) 小石 剛之(日出町) 佐々木 健太(津久見市)
佐藤 瞳海(臼杵市) 津田 惇樹(大分市) ◎舞 希(竹田市) ○渡邊 康成(別府市)

◎リーダー ○副リーダー

大分都市広域圏 未来創造塾中間報告書

Bチーム【 LivabLABO(リバブラボ) 】

チーム名について

livable(住みよい)+laboratory(研究所)=LivabLABO
という造語です。住民目線に立ち、より住みよい大分都市広域圏になるような政策を研究していきたい、という思いが込められています。

研究テーマについて

大分都市広域圏が抱える課題について洗い出しをし、各市町が恩恵を受けられるような政策を研究するという観点から、以下の2つにテーマを絞りました。

テーマ①：子育て・雇用

当初会議を行ったときに、班員の中から住民目線に立った政策研究を行いたい、という意見があり、それを目的に政策研究を行うことにしました。「住民が何を求めているのか?」という分析を各市町の総合計画を持ち合って行い、その結果、「子育て」「雇用」「交通」「防災」について多く要望が上がっていることが分かりました。交通政策については、当初から行う予定でした(テーマ②参照)。また、防災に関しては、広域圏として取り組むよりも大分県全体として考えた方が良いという意見があり外すことにしました。結果、「子育て」と「雇用」について政策研究を行う方針です。

テーマ②：交通について

当初会議でお互いの意見を出しあった際に、交通政策に興味がある班員がいたこと、JRやバスの減便、コミュニティバス事業の経費増など各市町において交通政策の問題が多く見られたため、交通政策を研究することにしました。現在は、お互いの市町村の公共交通等の事情を共有し、こういった政策が考えられるかを議論しています。

チーム構成員

◎財津 良平(日出町)○尾石 直子(豊後大野市)丸岡 慧(津久見市)岩本 哲尚(竹田市)
高橋 佳祐(臼杵市)立石 航大(別府市)大司 朋央(大分市)麻生 美すず(由布市)

◎リーダー ○副リーダー

別府市長による講話と意見交換会（令和元年11月19日）

令和元年11月19日、別府市役所にて、長野別府市長から講話を頂き、その後意見交換を行いました。



長野 恭紘 別府市長



別府市長との意見交換

長野 別府市長講話では、市長初当選の際の3つの約束や再選後の3つのチャレンジについてお話を頂きました。また、熊本地震を乗り越え、地域振興で別府を発信したプロジェクト「湯〜園地計画」では、クラウドファンディングで約9,143万円の資金が集まり、広告換算費では120億円以上の効果をあげたことなど、今存在するまちの魅力を最大限に活用する効果的な取組事例として紹介していただきました。

最後に、「公務員こそリスクをとれる！今までと同じことをしても、現状の問題は解決しないので、概念を取っ払って取り組んでほしい！」と熱いメッセージを頂きました。



別府市長との記念撮影

政策提案に向けて、さらに塾生のモチベーションが高まりました！ 長野市長、大変お忙しい中、貴重なアドバイスをいただきまして、ありがとうございました！！

明治大学 木村教授による講演（令和２年２月１３日）

令和２年２月１３日、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科の木村教授より「自治体間の広域連携」と題して講演をいただきました。ご自身の自治体行政の経験もふまえ、将来の圏域経済の活性化を実現可能なものとするための貴重なアドバイスをいただきました。



木村 俊介 教授



講演の様子

日本文理大学 吉村教授による講演（令和２年２月２６日）

令和２年２月２６日、日本文理大学建築学科の吉村教授より「地方大学を取り巻く現状と課題～社会の変化に応える大学改革が地方を救う～」と題して講演をいただきました。講演後には塾生の積極的な質問にも丁寧に答えていただき、政策立案の貴重なアドバイスとなりました。



吉村 充功 教授



講演の様子

明治大学の木村教授、日本文理大学の吉村教授の講演を受講し、政策立案に必要な考え方を学ぶことができました。貴重な講演をいただきまして、ありがとうございました！！

「第1期未来創造塾」の活動経過（令和2年3月～令和2年9月）

● 新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年2月以降、一堂に会する会議が実施できず、限られた形で調査・研究を進めてきました。令和2年5月に国の緊急事態宣言解除を受け、6月によりよく未来創造塾会議が従来どおりの形で再開することができました。

● 政策提案について具体化を進める

令和2年11月の大分都市広域圏推進会議での政策提案に向けて、具体的な提案内容の検討を進めました。

圏域が抱える広域的な課題に対する解決方法や手法について、各市町の関係部署に相談や情報収集をする等、気合を入れて、最後の追い込みに全集中です。



Aチーム（Team SALUD）の会議の様子



Bチーム（LivabLABO）の会議の様子

● 政策提案に向け、最終調整！ 塾長ヒアリングを実施！

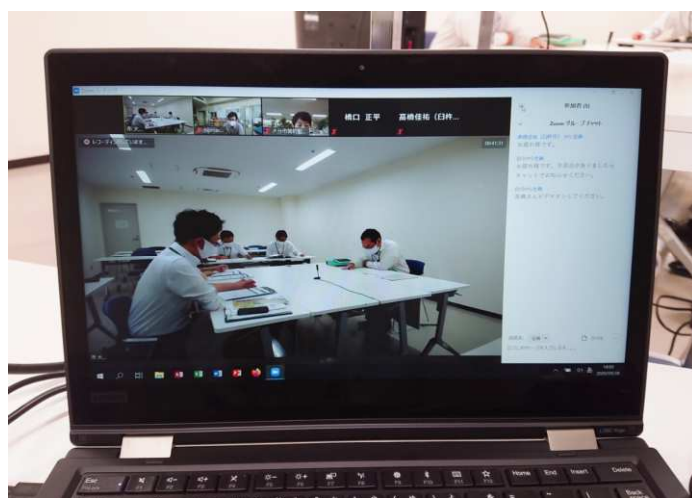
令和2年9月10日、各班のリーダー・副リーダーが大分市に参集し、塾長がヒアリングを行いました。

発表当日の政策提案に関する疑問や不安要素が解消できたことで、いよいよ本番に向けて体制が整いました！

塾長ヒアリングでは、リーダー・副リーダー以外の塾生に対して、リモートでヒアリング状況を生配信しました！



塾長からヒアリングを受ける
塾生（リーダー・副リーダー）たち



デジタル技術を活用し、
ヒアリング状況を配信

令和2年度の大分都市広域圏推進会議で政策提案（令和2年11月26日）

令和2年11月26日、ついに政策提案の本番当日を迎えました。発表をする両班のリーダーは、やや緊張した面持ちで各市町の首長に政策提案を行いました！

【会議名】 令和2年度 第2回大分都市広域圏推進会議
【開催日】 令和2年11月26日（木）10時00分～
【開催場所】 ホテル日航大分オアシスタワー 5階 孔雀の間

● 若手職員らしい自由な発想で斬新な政策提案に！



● 各班の政策提案のテーマについて

Aチーム
(Team SALUD)

- ・「広域圏における子育て世帯への情報発信」
- ・「企業誘致における情報発信の共有化」

Bチーム
(LivabLABO)

- ・「広域的な移動手段の構築について」
- ・「病児・病後児保育に係る提供体制の維持について」

● 政策提案の様子



政策提案を行うAチーム (Team SALUD)
竹田市 舞リーダー



政策提案を行うBチーム (LivabLAB0)
日出町 財津リーダー



質疑・応答

両チームとも、政策提案が無事に終了しました！各市町の首長から今後の事業化に向けたアドバイスや未来創造塾の取組姿勢に対して、高い評価をいただき、盛大な拍手により会議が終了しました！塾生の皆さん、長期に及ぶ調査・研究、大変お疲れ様でした！



政策提案後の記念撮影

A チーム Team SALUD（チームサルー）

政策提案「子育て世帯への情報発信」

テーマの背景・現状の課題 と 目指すべき圏域の将来像

広域圏内の各市町において、子育て世帯向け情報発信が一元化されていない。
便利な子育てフィールドとして広域圏の魅力が十分に伝わっていない、有効活用できていな

【各市町の子育て支援情報の発信ツールの現状・取組】

- ① **ホームページ**：各部署ごとに該当する事業や制度、施設やイベントなどを掲載。
（大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町）
- ② **ガイドブック・情報冊子**：児童福祉、障害福祉、教育の各分野の制度、及び施設情報等が網羅的に掲載されている。
（大分市、別府市、津久見市、竹田市、豊後大野市、日出町） ※臼杵市は母子モ導入で廃止
- ③ **子育て支援サイト**：②のWeb版的な作りのものが多い。大分市のnaanaは登録者同士のコミュニケーション機能等もあり。
（大分市、別府市、竹田市、豊後大野市、日出町） ※臼杵市は母子モ導入で廃止
- ④ **独自の子育て支援アプリ**：豊後大野市の「なないろ」
- ⑤ **母子手帳アプリ(母子モ)**：検診や予防接種の情報が月齢・年齢に応じて配信される。臼杵市はHPのイベント情報を添付。
（別府市（医師会）、臼杵市 【R2.10～】大分市、津久見市、竹田市、豊後大野市、日出町【R3.4～】由布市）

※ 子育て世帯向けの情報は複数部署に渡るため、同一市町において情報集約するだけでも労力を要していることが判った。

- 📍 **子育て世帯**：圏域内各市町を生活圏域と捉え、日常として休日・余暇の過ごし方の選択肢充実
- 📍 **圏域内市町**：交流人口（特に昼間人口）が増え、地域経済への期待増

まずは、現在子育て支援サイトとして圏域内で最も使用感の良い大分市の「naana」へ各市町のお出掛け情報を一括して掲載する。
ゆくゆくは、前述の「母子モ」や、更に利用者数の多い「LINE」などのSNSを利用したプッシュ型通知へ。

事業実施による効果

・ 圏域全体

- ・ 子育て世帯が余暇の過ごし方として有用な行政が発信するお出掛け情報を一早く入手することができる。
- ・ 広域圏をひとつの生活圏域と捉えるようになり、日常的・恒常的に広域圏内を往来するようになる。

・ 各市町

- ・ 子育て世帯が各市町に暮らしながら、広域圏内の他市町のお出掛け情報を入手することで、交流人口（特に昼間人口）の増加と地域経済の活性化を期待できる。
- ・ 周知方法を統一して画一的に事務を行うことで、事務担当者の負担軽減が期待される。



現状と事業実施による効果検証

表1. 子どもの(0~17歳)人口 [人] R2.3.31現在

表2. 子ども年齢別レジャー費 [円]

		未就学児	小学生	中学生	高校生	合計		レジャー・旅行費		
広域圏	男	18,295	20,692	10,572	10,786	60,345			日帰り レジャー費	宿泊を伴う 旅行費
	女	17,435	19,886	9,981	9,994	57,296				
	計	35,730	40,578	20,553	20,780	117,641		0歳	53,375	13,309
大分市	男	12,505	13,863	6,911	7,144	40,423	1歳	96,944	28,313	68,631
	女	12,046	13,381	6,639	6,511	38,577	2歳	120,494	37,683	82,812
	計	24,551	27,244	13,550	13,655	79,000	3歳	120,921	40,801	80,120
別府市	男	2,386	2,717	1,441	1,436	7,980	4歳	138,173	47,229	90,944
	女	2,234	2,589	1,329	1,371	7,523	5歳	143,106	46,007	97,099
	計	4,620	5,306	2,770	2,807	15,503	6歳	151,268	49,030	102,238
臼杵市	男	662	902	463	507	2,534	7歳	149,573	50,416	99,157
	女	594	846	412	461	2,313	8歳	164,960	52,498	112,462
	計	1,256	1,748	875	968	4,847	9歳	178,335	55,170	123,165
津久見市	男	234	322	193	188	937	10歳	167,134	52,358	114,776
	女	236	315	177	190	918	11歳	172,368	50,984	121,385
	計	470	637	370	378	1,855	12歳	171,611	51,840	119,771
竹田市	男	329	412	214	233	1,188	13歳	165,220	44,202	121,018
	女	288	380	220	217	1,105	14歳	164,954	43,984	120,971
	計	617	792	434	450	2,293	15歳	106,715	31,383	75,332
由布市	男	868	913	457	412	2,650	※ インターネットによる子育て費用に関する調査 (H22年度 内閣府 実施のものより)			
	女	809	866	390	419	2,484				
	計	1,677	1,779	847	831	5,134				
豊後大野市	男	567	765	441	442	2,215				
	女	560	724	402	413	2,099				
	計	1,127	1,489	843	855	4,314				
日出町	男	744	798	452	424	2,418				
	女	668	785	412	412	2,277				
	計	1,412	1,583	864	836	4,695				

圏域内の
高校生までの子
どもが
いる世帯で最大
**約24億
円**
の消費が見込ま
れる!!

事業実施に向けた課題と短期目標

■ 民間のイベント情報の掲載方法

☞ 公平性を保つための周知方法、広告料を取るか等

※ SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）感染症の影響による各市町の経済的損失を考えると、子育て世帯の外出と消費活動に直結する本事項は、事業開始とともに実施できる体制を整えられれば、官民ともに地域経済回復の一助となり得る。

■ 各市町の福祉施策等の差異

☞ 今後、お出掛け情報以外でホームページのリンクをnaanaに掲載すると、各市町の福祉施策の差異について差をなくしたり、他市町の制度利用を出来るような要望があがってくる可能性あるか

事業実施における短期目標

KPIの設定

naanaの年間アクセス数

500,000[件/年]（令和3年度）

参考：平成31年度 467,022[件/年]

令和元年度 460,358[件/年]

KPIの設定理由

イベントの参加数などは、情報を持ってもそれ自体に魅力があるかどうかに関係してくるため、情報発信事業としては、その情報の利用者数をKPIとすることが適当と判断した。

またサイト上には大分市独自情報も多いため、お出掛け情報に限定した他市町の利用者増を実績値1割程度と見込んだ。

A チーム Team SALUD (チームサルー)

政策提案「企業誘致に関する情報発信」

テーマの背景・現状の課題 と 目指すべき圏域の将来像

- ① 広域圏内の各市町において、人員配置等の問題もあり個別の企業誘致が進んでいない。
- ② 企業誘致を切り口にした自治体間連携が進んでいない。
圏域全体での雇用機会の確保・創出が困難となっており、将来の人口減少を加速させるリスクがある。

【各市町(広域圏)の企業誘致の現状・取組】

- ① 企業誘致の自治体間連携が進んでいない
自治体間で取り合いになりがちで、広域圏事業が展開されづらい。
- ② 企業誘致そのものに集中しづらい自治体が多い(マンパワー不足)
平均的に企業誘致担当者は1~2名、全体業務のうち企業誘致業務は約2割であり、担当者が少なく、片手間に企業誘致を担当している。
そのため、積極的な企業探索や営業活動ができていなかったり、進出用地の整備に向けた作業に取り掛かる環境が整っていない。
- ③ 個性豊かな各市町の特性・魅力を活かした情報発信が必要
大分県の役割...県として企業誘致を図る → マッチする自治体につなぐ(マーケットインのサポート)
各市町の特性、コンセプトの発信などができていない(プロダクトアウトの発信が弱い)

各市町ごとの地域特性や企業誘致のコンセプトを洗い出し、同時に企業体視点に立った上で企業等が欲している情報のニーズ調査を行い、大企業だけでなく中小企業・個人事業主を見据えた情報連携・発信を図ることで、各市町間による状況格差を回避しながら、広域圏内に企業進出を促進していきたい。

事業実施による効果

圏域全体

- 多様な企業体や個人事業主が必要としている情報を届けることで、自治体間の適度な競争の原理を残しつつ、**経済圏・生活圏として豊かな魅力を持つ広域圏全体の企業進出を促進**することができる。
- **企業等も広域圏をひとつの経済圏・生活圏と捉える**ようになり、**人材確保の負担軽減**が期待される。

各市町

- 経済圏・生活圏としての魅力をアピールできたり、**市町単独ではカバーできない条件不利を克服**できたりすることで、立地条件の良さを企業等にPRすることができる。
- 企業等から企業誘致担当者につながる間口のひとつとなることで、**企業探索の事務の一助**となる。
- 各市町の**企業誘致サイトへの投資コストを抑える**ことができる。



現状と事業実施の方向性とその効果

I 雇用促進のための企業誘致 (圏域内で人材を確保)

- ☞ 新たな雇用創出・雇用促進の効果
- ☞ 単一市町でなく圏域で広く人材を供給可
- 💡 技術職・専門職の人材確保が困難な場合誘致の足枷となる。

- ・立地市町の住民であるほど通勤には便利であり、条件さえ合致すれば立地市町が最も効果を得る。
- ・圏域をアピールしながら誘致することで、企業も広く人材確保の対象を考えられる。
- ・常に、「人材確保」と「人材育成」が課題となり、また、立地の障壁となり得る。

II 従業員ごと連れて来る企業誘致 (圏域内の住民数を確保)

- ☞ 本社・支社・工場等の大規模な立地が必須
- ☞ 圏域を生活圏域と捉え通勤圏内とすれば、立地市町以外の住民も増加し得る
- 💡 用地やインフラ、企業集積等が立地の決定に影響するため、大分市が強いのは必然。誘致自体ではなく、住民の増加を利として割り切れるかが鍵。

- ・立地市町は自ずと固定化される。
- ・大規模な移住者(立地に伴う異動によるもの)が期待される。
- ・日常生活圏域として誘致時点からアピールすることで、圏域内のいずれの市町にも居住し得る。

事業実施に向けた課題と短期目標

事業実施に向けた課題

- 大分県の企業誘致サイトとの取り扱い
 - ☞ 重複するものを作成してダブルスタンダードになることは避けた方がよい。既にあるものは県のサイトのリンクを貼る形を取るなど、大分県との調整が必要となってくる。
- 各市町の既存企業誘致サイトの取り扱い
 - ☞ 今後、各市町の企業誘致サイトが内容の重複による担当者の更新負担、既存サイトに掲載する情報と制作サイトに掲載する情報の整理作業が生じる。
- 情報の更新（形骸化のリスク）と制作サイトへの導線形成
 - ☞ 情報の更新は誰が行うのか。各市町の既存サイトに掲載している情報とタイムラグ等が生じないような定期的な更新作業が必要となる。

事業実施における短期目標

KPIの設定	KPIの設定理由
サイトの閲覧数	サイト制作による実績が把握可能となり、制作の成果を確認するため。（目標値は、広域圏HPの閲覧数と各市町の企業誘致HP閲覧数の現況値により設定したい。）

Bチーム Livab LAB0（リバブラボ）

政策提案「広域的な移動手段の確保」

テーマの背景・現状の課題

- 公共交通機関の減便等による運行本数の減少や交通空白地域の存在等により、住民の移動手段が限られている。
- デマンド交通等について、経費削減等により効率的な運行が必要。
- 公共交通機関のみでは、住民の移動手段をカバーできていない地域がある。
- 過度の自動車依存である。



広域的な移動手段の構築を目指し、満足度の高い交通政策に取り組む

現状の交通政策

①デマンド交通

圏域内の全市町実施中
※日出町は実証実験中

③サイクル&バスライド

・大分市

②パーク&ライド

・大分市

④低速電動バス

・大分市 ・由布市 ・竹田市

※令和2年11月末現在

目指すべき圏域の将来像

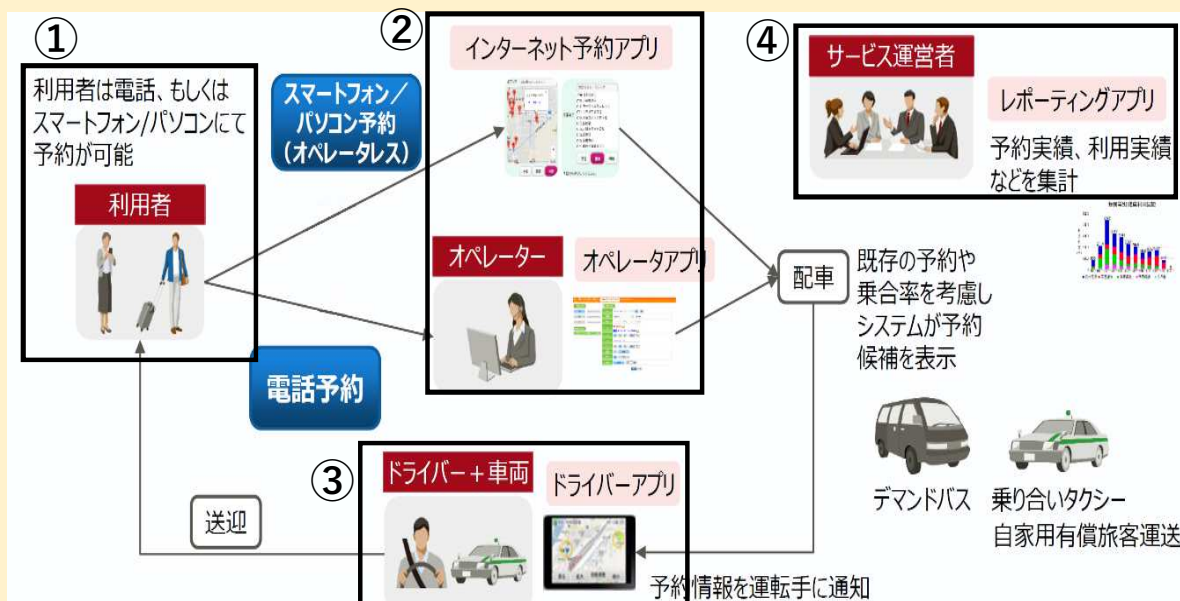
将来的には、広域的な移動手段の構築を目指し、以下のような取組の検討が必要。

- デマンド交通の広域化 （経費削減、住民の利便性向上）
- 自家用車の空席利用 （公共交通空白地域における住民の利便性向上）
- 店舗型パーク&ライド （公共交通の利用促進）



システム導入後の利用の流れ

- ① 利用者がスマートフォン、パソコン又は電話から予約
- ② アプリを通じて配車へ。電話の場合は、タクシー会社のオペレーターがシステムに予約を入力
- ③ システムから運転手へ車両搭載したタブレットで通知し、利用者を送迎
- ④ 運行後、利用実績等を自動集計し、各請求等に必要な書類を作成



取組の効果

- 圏域内の各市町の住民（デマンド交通利用者）においては、予約方法の選択肢の増加や予約制限時間の延長により利便性向上に繋がる。
- 共同利用によるシステムの維持管理費について、スケールメリットを活かした費用軽減が期待できる。
- 交通事業者や各市町の事務負担（集計・請求・支払作業）が軽減される。

事業実施に向けた課題

- 各市町のデマンド交通制度の違
- コミュニティバス路線の広域化等の運用部分について、広域連携の検討

KPIの設定

各市町のデマンド交通におけるシステム利用率
令和3年度 30%

Bチーム Livab LAB0（リバブラボ） 政策提案 「病児・病後児保育に係る提供体制の維持について」

テーマの背景・現状の課題

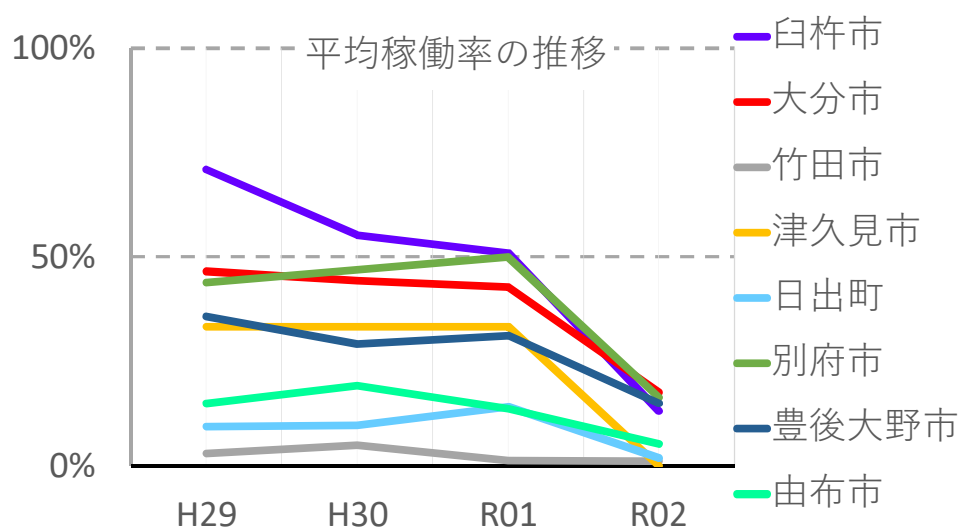
- 感染症流行期は定員超過により利用できない場合がある。
- 原則、広域利用（市町村の区域を超えた施設利用）ができない。
- 利用者数の季節変動が大きく、施設予約のキャンセル率が高い。
- 看護師や保育士は常駐を原則としているため、人件費がかかる。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が大幅に減少しており、今後もこの状況が続くと見込まれる。（圏域内におけるR2.4～8利用者数は約65%減(前年同期比)）

施設運営が不安定なため、このままでは病児・病後児保育に係る提供体制の維持が困難となる

各市町の施設における平均稼働率

コロナの影響によりR2の平均稼働率（※）は大幅に減少している。

※平均稼働率＝年間延べ利用児童数／（施設定員×年間開所日数）





目指すべき圏域の将来像

- 病児・病後児保育が普及され、仕事と子育ての両立支援が図られる。
- 病児・病後児保育をはじめとする多様な保育の提供体制の充実を図ることで、圏域内の子育て支援の満足度を向上させる。

具体的な取組

以下の取組を段階的に実施していく。

- ① **病児・病後児保育施設に対する経営実態調査・利用者ニーズ調査の実施**
各施設や利用者を対象とした調査を行い、圏域内特有の課題やニーズを把握する。
- ② **経営実態調査等を踏まえた取組の検討**
調査結果を踏まえ、施設の稼働率、利用者の利便性向上に向けた取組を検討する。
- ③ **取組の検証**
感染症流行期に備えて、予約システムの導入や広域利用（圏域内の各市町の病児・町の病児・病後児保育施設における他市町の病児・病後児の受入れ）が可能な検証する。

取組の効果

- 市境に住む住民等にとっては、利用先の選択肢が増えるため、利便性が向上する。
- 事業者は病児・病後児保育の稼働率が向上することで、施設運営が安定する。

事業実施に向けた課題

- 特定の市町に他市町からの利用者が増加することで、当該市民の利用の妨げに繋がる可能性があるため、その影響を抑える仕組みの検討が必要。
(例) 広域利用者の予約時間の制限、市内と市外利用者の料金設定の区別等
- 他市町の施設を利用した分に係る財政負担の増加
- 予約システムを導入する場合における施設側のランニングコストの負担

各市町の首長によるコメント

● Aチームの政策提案に対して



佐藤 大分市長



長野 別府市長



中野 臼杵市長



川野 津久見市長

- ・スケールメリットを活かして、住民に身近なアプリ等を使用して、ワンクリックで各市町の情報が入手できるようになれば良いですね。しかし、一方でマンパワーも必要となってくるのではないかと思います。どのような手法で情報発信していくか、是非とも研究していただきたいと思います。そうすれば、子育て世帯に対する情報発信もより良い成果物ができるのではないかなと思います。
- ・一気に企業誘致を進めるのはハードルが高いですね。例えば、ワーケーションを入口として、移住定住に結び付けていくことや、ワーケーションに優れた圏域であることを情報発信していく等、検討を進めていく方が良いかと思います。そうすると、企業誘致も多少は入口のハードルが下がるのではないかなと思います。
- ・立地表明があった企業からの情報によると、最近では在宅勤務ができる体制が整ってきているようです。子育て世帯向けの情報発信や企業誘致に関しても、さらに研究をしていただいて、ワーケーションや在宅勤務についても実現ができるようになれば良いかなと思います。

● Bチームの政策提案に対して



首藤 竹田市長



川野 豊後大野市長



相馬 由布市長



本田 日出町長

- ・なかなか難しい課題でもありますし、圏域での課題という点もまた研究に苦勞されたのではないのでしょうか。このような課題は、まずはできるところから着手し、動かしていくことでよりよい改善策が見えてくることがありますので、引き続き頑張ってくださいと思います。
また、併せてこのような取り組みを続けることで、成果や結果も大切ですが、皆様が苦勞して集まって議論した過程がこれから大きな財産になるのではないかなと思います。
- ・このような議論をする際は、大分市役所に集まるとか、会議室に集まるとか、圏域の市町に集まるとか、市役所を飛び出してみても、例えば竹田市の岡城で色々話をしてみようとか、マグロの兜焼きを食べながらとか、別府市の温泉に入って浴衣を着て話をしてみるとか、環境や場面が変われば発想ががらりと変わるものですので、色々チャレンジして下さい。
我々も応援しますので、是非来年度以降も続けていただけたらと思います。宜しくお願いします。

資料編

大分合同新聞掲載記事

● 大分合同新聞（朝刊） 2019年6月11日（火）

都市広域圏「未来創造塾」スタート



力強く宣言する未来創造塾のメンバーら＝10日、大分市役所

大分都市広域圏を構成する7市1町のさらなる連携を図るため、構成市町の若手職員による政策研究チーム「未来創造塾」が10日、スタートした。広域的な課題や全国の先進的な取り組みについて自主的に調査・研究し、事業提案を目指す。

メンバーは各市町から2人ずつ選出した20、30代の職員計16人。大分市役所で開講式があり、広域圏推進会議会長の佐藤樹一郎大分市長が辞令を交付し、「皆さんの若い頭脳で、福利や利便性の向上など市町を超えた取り組みを。これからの地域は皆さんの肩にかかっている」とあいさつ。

塾生を代表し、大分市土木管理課の津田惇樹主事（30）が「若者の柔軟な発想でより良い未来を創造できるように一生懸命に取り組む」と決意を述べた。

16人は2チームに分かれて競い合いながら議論する。今後、チームごとに月1回以上の会合を開いた

事業提案目指し政策研究

7市1町若手職員連携

観光PRなど協力へ

【大分市】大分市など7市1町でつくる大分都市広域圏の推進会議が10月28日、大分市内のホテルであった。

本年度は観光PRや担い手確保、特定外来生物の広域防除などに協力して取り組むことを決めた。

広域圏を形成する各市町の首長ら10人が出席。佐藤樹一郎会長（大分市長）が「昨年度までの3年で47事業を実施した。圏域の経済を持続可能なものに、住民が安心して暮らしていけるように今後も取り組みを進める」とあいさつした。

今年6月に立ち上げた各自自治体の若手職員の政策研究チーム「未来創造塾」の中間報告もあり、リーダーの舞希さん（竹田市）と財津良平さん（日出町）が企業誘致や子育て支援、交通について研究を進めていくことを報告した。

同広域圏は総務省が提唱する連携中枢都市圏構想に基づき、大分、別府、臼杵、津久見、竹田、豊後大野、由布各市と日出町が2016年3月に設置した。



中間報告をする舞希さん（左端）

● 大分合同新聞（夕刊） 2019年11月16日（土）

若手職員が政策提案

子育て支援・交通手段 自治体の垣根越え



広域連携の政策を発表した未来創造塾のメンバー。残りの塾生はビデオ会議システムで報告を見守った＝26日、大分市内のホテル

16市1町 広域連携を例示

大分、別府など7市1町の若手職員でつくる政策研究グループ「未来創造塾」が26日、自治体の垣根を越えた子育て支援や交通手段確保策などを各首長に提案した。大分都市広域圏推進会議（会長・佐藤樹一郎大分市長）の取り組みの一環。20～30代の16人が昨年6月から定期的に集まり、初めてアイデアをまとめた。

塾は地域の課題や全国の先進的な試みを調査し、若者が狙い。広域圏を構成する

大分、別府、臼杵、津久見、竹田、豊後大野、由布の各市と日出町から職員2人ずつを選んで立ち上げた。

2班に分かれて14回の研究会を開き、「子育て世帯への情報発信」「移動手段の構築」「企業誘致」「病児・病後児保育」の四つをテーマに検討。長野恭紘別府市長、地方自治などを専門とする大学教授の講話を通じて議論を深めてきた。

26日は大分市内のホテルで報告会があり、それぞれの課題に対する政策を発表した。子育て世帯に関しては「各市町で休日のイベントや検診などの情報発信が一元化されていない」と問題を挙げた。

解決のため、大分市の子育て支援サイト「nanaa（なな）」に圏内のお

出掛け情報などをまとめて掲載するよう提言。交流人口の増加にもつながると指摘した。

住民の移動手段では、各市町が実施する乗り合いバス・タクシーの広域化を促した。実現に向けた最初のステップとして、自治体ごとに異なる運行管理システムの共通化などを例示。広域運用することでコスト削減、利便性の向上が期待できると強調した。

子育て世帯への情報発信などを検討した班でリーダーを務めた竹田市企画情報課の舞希さん（35）は「多くの自治体でマンパワー不足が懸念され、規模の小さな市町では打てる施策も限られる。広域連携の重要性が実感できた」と話した。

同会議は2016年3月に発足し、消防の救急搬送など43事業で協力している。佐藤会長は「地域の課題解決につながる提案だった。広域圏の事業に生かしたい」と述べた。

来年度以降も新たな塾生を募集し、政策提案を目指す。（是永桂一）

「第1期未来創造塾」かわら版（創刊～第3回）

未来創造塾創刊号

大分都市広域圏 政策研究チーム 未来創造塾が開講しました！



令和元年6月10日（月）大分市役所3F特別会議室で大分都市広域圏推進会議の会長である佐藤樹一郎大分市長の開講宣言のもと、塾長と7市1町の精鋭16名の塾生で構成される未来創造塾が開講しました。

開講式では塾生代表で豊後大野市の尾石さんが塾生の辞令を受けとり、その後、大分市の津田さんが未来創造塾の塾生として、今後2年間に向けた力強い決意表明をしてもらいました。

市長のあいさつの中で「若い職員の斬新なアイデアによる事業提案を楽しみにしています」とのお言葉がありましたが、直後の市長との意見交流会でさっそく市長が思わずたじろぐような斬新な質問が飛び行きました。大変心強い限りです。



【第1回未来創造塾開講】

市長室での開講式の後、場所を移して第1回目の創造塾を開講しました。今回は1回目ということで、塾長から大分都市広域圏の形成などについて講和をもらい、その他事務局からの説明等の後、いよいよ皆さんが2年間ともに研究するチームに分かれて自己紹介を行いました。



さっそく始まった自己紹介は当初緊張の面持ちでしたが、そこはさすが精鋭の皆さん、5分も経たないうちに、ユーモアあふれる自己紹介で会場内は笑いにあふれ、すぐに和やかな雰囲気になりました。今回は各チームのリーダーを決定し、次の会議の日程や研究テーマの決定方法などについてリーダーを中心として2時間の協議の中で決定をしていきました。

Aチーム竹田市の舞リーダー、Bチーム日出町の財津リーダーをはじめ、塾生の皆さん、あらためてこれからよろしくお願いします。

【第1回未来創造塾交流会】

夕方から（お酒好きな事務局としては）本日のメインイベントである交流会を開催しました。宴が楽しすぎたあまり、交流会の写真を撮り逃すという失態を演じましたが、開講当初に和んだ空気は勢いをつけて加速し、交流会が終わる頃にはお互い随分前から仲間として交流を続けてきたような感覚になるくらい、交流を深めることができました。開講式からの長い1日でしたが、皆さんにとっても思い出深い日になったのではないかと思います。これから2年間とは言わず、それ以降も地域の仲間として交流が続くような塾になればと思っておりますので、機会あるごとにこのような交流会を開催したいと思います。大変お疲れ様でした。

発行：大分都市広域圏 政策研究チーム 未来創造塾 事務局（大分市企画部企画課内 097-537-5603）

未来創造塾第二回

未来創造塾 研究テーマが決定しました

未来創造塾は前回の開講式を皮切りに、Aチームは7月11日（木）に、Bチームは7月19日（金）にそれぞれ第二回目の研究会を開催しました。今回は皆さんがそれぞれ自分で考えた研究テーマをプレゼンし、チーム内でその事業について質疑応答を行い、最終的に各チームで研究テーマの大きな枠組みを決定しました。

●Aチームの研究テーマ ①企業誘致 ②子育て施策 ③高齢者施策



（Aチーム）塾長講話



（Aチーム）テーマ決定協議

●Bチームの研究テーマ ①住民第一主義のまちづくり ②交通政策



（Bチーム）テーマプレゼン



（Bチーム）テーマ決定協議

様々な分野の研究テーマについて、塾生の皆さんが熱くプレゼンをしていたので、テーマの絞り込みには相当苦労していましたが、そこはさすがリーダーがうまく皆さんの考えをまとめ、概ね皆が同じ方向に向かって研究をしていける分野でテーマの決定を調整していました。

今回は研究テーマの大体を決定しましたが、次回以降はこのテーマの枠組みで、より研究内容の絞り込みをしていくことで、今後塾生の皆さんが政策提案をする内容を明確にしていく予定です。

今回の創造塾では皆さんが考えた研究テーマのプレゼンと、それに対する熱心な質疑応答により、あっという間に予定の時間が経過してしまい、もうひとつ大きな項目である「研究チームの名前決め」ができなかったため、次回までは「Aチーム・Bチーム」とさせていただきます。次回の創造塾では若い皆さんの斬新なアイデアで新たなチーム名を決定してくれるものと期待しています。

発行：大分都市広域圏 政策研究チーム 未来創造塾 事務局（大分市企画部企画課内 097-537-5603）

未来創造塾第三回 Aチーム ①企業誘致 ②子育て施策 ③高齢者施策
Bチーム ①住民第一主義のまちづくり ②交通政策

研究テーマの各市実例等意見交換を行いました

第三回未来創造塾は、Aチームが8月30日（金）に、Bチームは8月21日（水）にそれぞれ開催し、今回は各チームの研究テーマについて各自自治体の現状を報告することで情報共有を行いました。Aチームは研究テーマを3つ挙げているため、「子育て施策」は時間の関係で情報共有は次回となりました。



Aチーム



Bチーム

今回は冒頭に今後のスケジュールとして、「11月中旬に別府市長をお招きして皆さんの研究テーマに沿った意見交換と協議会を行います」と申し上げたところ皆さん一気に関心が入ったのか、かなり入念な意見交換になったようです。今回行った会議の内容（意見）は以下の通りです。

（Aチーム）

高齢者施策として、シニアアカデミーについては、参加者の減少と固定化が課題としたうえで、③高齢者の学びの場のあり方と圏域での交流促進④高齢者の活躍の場を設けることでの地域経済の活性化 などさまざまなベクトルから今後高齢者が社会で活躍できる施策の方向性を引き続き研究していくこととし、企業誘致については、小さい市町では事業を進めるうえでマンパワーの不足と、圏域内で誘致が融合してしまうことが課題としてうえで、大工場を1自治体で誘致するより、複数店舗（オフィス）を構える企業を複数自治体で誘致する方法や、大企業を圏域の中核市で誘致し、圏域の市町はベッドタウンやレジャーの受け皿となることで役割分担をすることが事業の可能性として考えられるため、引き続き研究していく。

（Bチーム）

交通施策及び住民第一主義のまちづくりとして、各自自治体での取組みや、交通事情についても各々報告したうえで、その施策のターゲットを高齢者や若者など、層を絞って検討すべきか、また、最終的に市民の満足度を上げることが成果となるため、各自自治体の総合計画がどのように関連施策について記載しているか確認する必要があることから、今後各自自治体の総合計画を持ち寄り、テーマと研究内容の絞り込みを行うことと、自分たちが設定している研究テーマについて、逆に住民側が何を必要としているか今後整理していく。

ご覧のとおり研究テーマはもとより、研究の進め方も違った手法で進めており、さっそく各チームの個性が芽生えてきたことから、今後どのように政策を組み立てていくか非常に楽しみです。まずは皆さん、11月中旬の別府市長との意見交換に向けて、研究内容の土台を固めていきましょう！

発行：大分都市広域圏 政策研究チーム 未来創造塾 事務局（大分市企画部企画課内 097-537-5603）

「第1期未来創造塾」かわら版（第4回～第7回）

未来創造塾第四回 Team SALUD (①企業誘致 ②子どもに関すること)
Bチーム (①住民第一主義のまちづくり②交通政策)

研究テーマの絞り込み、各自治体の現状分析を行いました

第四回未来創造塾は、Team SALUD・Bチームとも9月25日（水）に開催し、今回は各チームの研究テーマについて引き続き自治体の現状分析するとともに、Team SALUDは研究テーマ絞り込みを行いました。



Team SALUD



Bチーム

今回 Team SALUD は日出町で開催し、ランチ会ですらなる友好を深めたなか、ついにチーム名が決定しました。Bチームは太田市で開催し、前回から引き続き各自治体の現状分析を行いました。活発な議論により、時間切れとなったことからチーム名は後日決定することになりました。

Team SALUD

チーム名決定：「Team SALUD」（チームサルー） ※サルーは乾杯という意味。物事の始まりの掛け声としてふさわしく、高峰山の猿にもかかるといわれています。

前回企業誘致のテーマに引き続き、子育て施策に関する取組のうち、イベント関係と児童虐待関係の情報共有を行い、イベントはわかりやすい情報発信を効果的に行う仕組みとしてアプリを使用することが有効と判断し、開発の初期投資を軽減するため太田市にある既存のアプリを圏域で共有できないか今後研究していく。

また、これまでの会議で各チームのボリュームが相当あることが分かったため、現在3つあるテーマのうち、今後は「企業誘致」と「子どもに関すること」に絞って研究していくこととした。

Bチーム

「住民第一主義のまちづくり」については、各自治体の総合計画を研究したうえで、各市町の住民の意識調査の重要度・満足度に注目すると「子育て」と「雇用」が共通の課題となっていることが確認できた。なおこの課題は Team SALUD も研究中であることから、その方向性も参考にしながら研究の切り口を考えていく。

「交通政策」については、施策の展開のターゲットについて考えた結果、現段階ではターゲットは絞らず、「高齢者」「観光客」など複数の観点から考えられる事業の検討を進めることとした。

以上のとおり待望のチーム名が決定しました。Bチームの皆様は10月の首長会議までに何かチーム名を決定してもらいたいと思います。テーマの研究は各チーム概ね自治体の現状把握が完了し、課題の整理とともに研究内容の絞り込みに入ってきたようであるように感じています。なお、当方においてはこの第四回の紙面の作成が遅れまして、大変すいませんでした。

発行：大分県市広域圏 政策研究チーム 未来創造塾 事務局（大分市企画部企画課内 097-537-5603）

未来創造塾第五回 Team SALUD (①首長会議、別府市長講話 ②企業誘致の政策検討)
Bチーム (①住民第一主義のまちづくり②交通政策)

チーム名決定！首長会議での報告に向けてテーマを整えました

第五回未来創造塾は、Team SALUDが10月24日（木）に由布市で、LivabLABOは10月16日（水）に竹田市で開催し、今回は首長会議での発表内容についての確認や各チームの研究テーマについて引き続き分析を行いました。



Team SALUD



Team SALUD

首長会議（10/27）での発表内容について、チーム内で情報共有した。また、企業誘致の政策検討については完成形ではなく、プロトタイプを作成することとした。今回はあらゆる可能性を模索するため、ブレインストーミングにより、政策検討を行った。この結果、企業誘致の政策の可能性として、①情報発信②人材育成③制度整備④企業探索の4テーマに大別された。

次回はこの4テーマに基づいて研究をしていく。

LivabLABO

チーム名決定：「LivabLABO」（リバブラボ） ※「livable（住みよい）+laboratory（研究所）」から考えた造語。より住みよい大分県市広域圏になるような政策を研究していきたいという思い。

「住民第一主義のまちづくり」については、義務教育中の子どもを対象に施策を検討してはどうかという意見が出た。各市町の子育て支援の事業計画はまだ現在確認できていないので、各々で調査・分析が必要であると認識した。「交通政策」については、乗り合い、空席利用の政策を考える方向性で意見が一致した。今後は先進事例を含め運用している事例を調査研究していく。

推進会議で中間発表をしました！



10月28日（月）に開催された各市町が集まる首長会議の中で、各チームのリーダーがテーマ設定などについて中間報告を行いました。

両チームともに名前が決定しました。テーマについてはより具体的な研究に入っているようです。次回は別府市長の講話を聞く貴重な機会なので、とても楽しみです！

発行：大分県市広域圏 政策研究チーム 未来創造塾 事務局 大分市 企画部 企画課内 (097-537-5603)

未来創造塾第六回 別府市長講話・Team SALUD LivabLABO 合同全体会

別府市長から貴重なアドバイスを頂きました！

第六回未来創造塾は、11月19日（火）に別府市役所にてついに長野別府市長の講話と意見交換が実現しました！！



長野市長講話では、市長初当選の際の3つの約束や、再選後の3つのチャレンジについてご説明を頂きました。また、熊本地震を乗り越え、地域振興で別府を発信したプロジェクト「湯〜園地計画」では、クラウドファンディングで約9,143万円の資金が集まり、広告換算費では120億円以上の効果をあげたことなど、今存在するまちの魅力を最大限に活用する貴重な取組事例を紹介していただきました。また「公務員こそリスクをとれ！今更で同じことをしても、現状の問題は解決しないので、概念を取っ払って取り組んでほしい！」と熱い思いに押し、一同意議を改めさせられました。

その後行われた、長野市長との意見交換会では、観光資源と行政についてや「おいしいランチ」、「ホリエモンとの対話」など個人的な質問についても、非常に率直な回答していただき、会場は大変な盛り上がりとなりました。中にはだれととは言えませんが、「人事交流で別府市役所勤務が可能なら私を指名して下さい」と申し出た塾生もいたほどです。

第6回未来創造塾全体会を開催しました！



別府市長講話後は、第6回未来創造塾を両チーム合同で行い、現在の状況や取組方法についてお互い情報共有を行いました。

今回別府市長の講話を間近で聞く貴重な経験となりました。市長からのアドバイスを活かして政策提案につなげていけるものと感じています！！今後もいろいろな方の話を聞く機会や情報共有する場を設けていきたいと思います。

発行：大分県市広域圏 政策研究チーム 未来創造塾 事務局 大分市 企画部 企画課内 (097-537-5603)

未来創造塾第七回 Team SALUD (①企業誘致について) LivabLABO (①住民第一主義のまちづくり②交通政策)

具体的な政策の研究を進めています！！

第七回未来創造塾は、Team SALUDが12月18日（木）に竹田市で、LivabLABOは12月16日（月）に日南市で開催し、各チームの研究テーマについて引き続き分析を行いました。



Team SALUD



LivabLABO

Team SALUD

前回議論された「企業誘致政策」について、①「大分県企業立地ガイド」にあるような情報をどのように広報していく必要があるか、②進出希望企業と既存企業との交流・情報交換について企業誘致担当者の意見、③企業が求める人材育成④これらについてインタビューしてみたい企業についての4つの観点から議論を行った。④についてはT系（新技術）・オフィス系を中心に、すでに大分県内に進出している企業の名前（資生堂、Huber、大分ロケータセンター、オムロン太陽、ヒョウショク、TOTO、キャノンなど）が挙がった。また、コーディネーターが絡んで実現したプロジェクト等の話を聞きたいといった意見が出た。次回は子育て支援政策についてのブレインストーミングを行う予定である。

LivabLABO

「住民第一主義のまちづくり」については、①保育所等の共同整備（越境利用）や②就学児童にむけての環境教育（オルタナティブスクールのような取組）など具体的な政策の方針に向けて議論を行い、2つの政策のどちらかで研究を深堀りしていくこととなった。また、「交通政策」では、公共交通は無料という欧州の考え方を基に、運営を自治体で試みた結果の発表を行い、視察地域の検討を行った。先進地の視察を行う場合の希望地としてフィンランドヘルシンキ市、北海道天塩町、福岡市、大分市（モバクルイート）等の希望地が挙げられた。次回は「住民第一主義のまちづくり」「子育て」の2つの政策のうちどちらかの政策を提案、「雇用」の研究を続行するか検討をし、「交通政策」では、先進事例等を用いて議論を深めていく予定である。

以上のとおり両チームとも研究が進んでいます！企業側の意見を聞くことや先進地視察を検討するなど多方面からの意見を取り入れる動きも出ています！！また、2月13日は広域連携に高い見識を持つ明治大学の木村俊介教授をお招きし「自治体間の広域連携」と題した記念講演会を開催いたしますのでご多忙のところ恐縮ですがご出席をお願いいたします。(x-x)

発行：大分県市広域圏 政策研究チーム 未来創造塾 事務局 大分市 企画部 企画課内 (097-537-5603)

「第1期未来創造塾」かわら版（第8回～第11回）

未来創造塾第八回 Team SALUD (①子育て支援策について)
LivabLABO (①住民第一主義のまちづくり②交通政策)

第8回会議の開催および木村教授からご講演をいただきました！

第八回未来創造塾は、Team SALUD が1月23日（木）に大分市で、LivabLABO は1月28日（火）に白杵市で開催し、各チームの研究テーマについて引き続き分析を行いました。



Team SALUD



（Team SALUD）

子育て支援策についての検討を行った。ブレインストーミングを行い、子育て支援策についてアイデアを各自発案し、検討を行った。その結果①児童虐待②支援制度の充実③専門施設の整備④情報集約アプリ⑤イベント関係の5つのテーマに分類された。この中で、情報に関連する案が多く、子育て世帯が求めているものは「情報」ではないかと考えた。アプリもしくはLINE等の既存のものにのみならず形で情報提供はもちろんだ。利用者同士での情報の共有や発信が促していけば、子育て制度に限らず観光や防災等様々な分野への活用が可能だから「④情報集約アプリ」についてさらに掘り下げて検討していくこととした。

（LivabLABO）

「住民第一主義のまちづくり」については、子育てに関する政策で、①保育所の共同整備（越境利用）②就学児童に向けての環境教育③保育士の確保④送迎支援⑤広域利用における入所手続きの簡素化⑥自治体間連携による子育てに温かい社会の醸成⑦教育とSDGsなど、具体的な政策の方針に向けて議論を行った。また、「交通政策」では、国の公共交通政策や先進地域等の事例を用いて、議論を行った。この中で観光地は実証実験の取り組みが多く、交通政策を行いやすいことを踏まえ、具体的な政策の方針に向けて議論を行った結果、①Maasに係る基盤の整備②乗合タクシーの広域化③高齢者専用オペレーター④勤務先企業との連携が挙げられた。次回は今までの意見を整理するために、ブレインストーミングを行う。また、今後の進め方について確認を行い、3月までに提案内容を決定することになった。

明治大学木村教授から「自治体間の広域連携」のご講演をいただきました！



2月13日（木）に明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科の木村教授にご自身の自治体行政の経験もふまえ、将来の圏域経済の活性化を実現可能なものとするための貴重なアドバイスをいただきました。

発行：大分市広域圏 政策研究チーム 未来創造塾
事務局：大分市企画部企画課内（097-537-5603）

未来創造塾第九回 Team SALUD (①子育て支援策について)
LivabLABO (①住民第一主義のまちづくり②交通政策)

第9回会議の開催および吉村教授からご講演をいただきました！

第九回未来創造塾は、Team SALUD が2月13日（木）に大分市で、LivabLABO は2月26日（水）に大分市で開催し、各チームの研究テーマについて引き続き分析を行いました。



LivabLABO



（Team SALUD）

子育て支援策に使用するプラットフォームについて検討を行った。オリジナルアプリの構築については、新規アプリ制作や、既存アプリの相乗りなどを検討した。また、SNSなどコミュニケーションツールでは、LINEやFacebook、Twitter、Instagramを挙げ、それぞれのメリットデメリットを勘案した結果、大分市naanaの広域連携化とInstagramの活用可能性を残すことにした。現在、①企業誘致分野では「誘致・人材育成・制度設計」の3点、②子育て支援策では「情報集約・発信ツール作成」の1点の政策アイデアとなっている。そのため、テーマの絞りこみを行うため4人ずつ2つの作業チームに分けるなど今後の進め方について検討したい。

（LivabLABO）

「住民第一主義のまちづくり」については、子育てに関する政策で、①保育所の共同整備（越境利用）②保育士の確保③子育てアンケート④就学児童にむけての環境教育についての議論を引き続き行った。また、交通政策では、①Maas②公共交通機関（車）の分類についてそれぞれ考えを発表した。次回は、各々が具体的な政策案を持ち寄り議論を深めていく。

日本文理大学吉村教授からご講演をいただきました！



2月26日（水）に日本文理大学建築学科の吉村教授に「地方大学を取り巻く現状と課題～社会の変化に応える大学改革が地方を救う～」と題して講演をいただきました。講演後には塾生の積極的な質問にも丁寧に答えていただき、政策立案の貴重なアドバイスとなりました。

発行：大分市広域圏 政策研究チーム 未来創造塾
事務局：大分市企画部企画課内（097-537-5603）

未来創造塾第十回 Team SALUD (1. 企業誘致 2. 子育て支援策)
LivabLABO (1. 住民第一主義のまちづくり(子育て) 2. 交通政策)

令和2年度 第10回未来創造塾会議が開催されました！！

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度2月以降、一堂に会する会議が延期され、限られた時間で調査・研究を進めてきました。国の緊急事態宣言解除を受け、A班（Team SALUD）が6月10日（水）、B班（LivabLABO）が6月3日（水）によりく未来創造塾会議が従来どおりの形で再開することができました。



A班（Team SALUD）



A班が作成した政策企画書



B班（LivabLABO）

A班（Team SALUD）

1. 企業誘致について

大学等と連携した人材育成や情報発信、企業間で連携ができる制度整備が必要であるとの認識を共有した。また、検討中の政策案について、県内の既出企業への視察・ヒアリングが必要とされているが、現状下において実現可能であるかの課題が残った。

2. 子育て支援について

大分市の既存アプリ「naana」を活用し、圏域各市町の子育てに関するお役立ち情報について、取得しやすい環境システムの整備が必要との意見が出された。今後、別府市の公式LINEアカウントの作りこみ方を参考に情報収集を行う。
※政策提案の時期が近づいていることを踏まえ、「政策企画書」（上記見本）を作成し、今後具体的な企画立案の作成に移れるよう準備を進めていく。

B班（LivabLABO）

1. 住民第一主義のまちづくり（子育て）

政策提案を①保育所の共同整備、②保育士の確保に関する施策の2点に絞った。今後、各市町の子育て担当課から意見聴取に向け、課題抽出とその解決に向けた検討を進める。

2. 交通政策

①Maas、②コミュニティバスと乗合タクシーの広域化、③パークアンドライド、④空席利用の4分野について、それぞれの立場から考えを発表した。また、「新型コロナウイルス感染症予防対策を含めた提案が必要」との意見も。引き続き、情報収集・共有を行い、次回の協議で上記①～④の中から政策の提案内容を決定する。

両班久しぶりの会議の開催でしたが、今まで検討してきた政策は「アフターコロナ」に対応したものにすべきとの新たな議論もされているようです。政策提案の時期も近づいていますが、皆さんあきらめず自由な発想で議論を進めて下さい。

発行：大分市広域圏 政策研究チーム 未来創造塾
事務局：大分市企画部企画課内（097-537-5603）

未来創造塾第十一回

第11回未来創造塾会議が開催されました！！

令和2年7月豪雨により、被災された方をはじめ、避難所開設や避難者の対応、復旧活動等に従事された方に対し、一刻も早い復旧を祈願しております。さて、猛暑が続く中、A班（Team SALUD）が7月15日（水）、B班（LivabLABO）が7月27日（水）に未来創造塾会議が開催されました。

A班（Team SALUD）

1. 企業誘致につながる人材育成について

大分県内では、大学卒業後の地元就職率が全国的に低い現状があるため、企業と学生のマッチング機会の創出等、圏域全体の地元就職率の底上げにつながる取組について意見交換を行った。

2. 子育て支援の情報発信について

圏域内の各市町において、子育て世帯向けレジャー情報等が一元化されていない現状について、圏域内での子育て世帯の交流人口の拡大を目指し、お役立ち情報の集約と発信ができるツール（大分市の既存アプリ「naana」等）の活用について検討を行った。

B班（LivabLABO）

1. 保育の受け皿確保について

幼児教育・保育の無償化や女性の就業意欲の増加等により、今後も保育ニーズが高まることが予想される。未入所児童（特養児童を含む）の対応策として、「保育所の共同整備」「保育士の確保」について意見交換をし、各市町の状況調査を実施することになった。

2. 広域的な移動手段の構築について

公共交通機関の運行本数の減少や交通空白地域の存在等、住民の移動手段を確保する取組として①自家用車の相乗り②デマンド交通の広域化について検討した。また、公共交通の利用促進に向けた③店舗型パークアンドライドの他都市の取組について情報交換を行った。

令和2年度 第1回大分市広域圏推進会議が開催されました！！

7月30日（木）に令和2年度第1回大分市広域圏推進会議が開催されました。各市町の首長に、各班が取組もうとしているテーマを示し、11月推進会議の政策提案に向けたスケジュールを説明しました。

【推進会議の配布資料】



発行：大分市広域圏 政策研究チーム 未来創造塾
事務局：大分市企画部企画課内（097-537-5603）

「第1期未来創造塾」塾生名簿（令和2年4月1日時点）

● Aチーム Team SALUD（チームサルー）

※ リーダー：竹田市 舞さん

※ 副リーダー：別府市 渡邊さん

	自治体	所属	名前	読み仮名
1	大分市	土木管理課	津田 惇樹	ツダ ジュンキ
2	別府市	保険年金課	渡邊 康成	ワタナベ ヤスナリ
3	臼杵市	観光課	佐藤 瞳海	サトウ ヒトミ
4	津久見市	社会福祉課	佐々木 健太	ササキ ケンタ
5	竹田市	企画情報課	舞 希	マイ ノゾミ
6	豊後大野市	総務課	小代 洋介	オジロ ヨウスケ
7	由布市	総合政策課	明石 剣斗	アカシ ケント
8	日出町	都市建設課	小石 剛之	コイシ タケシ

● Bチーム Livab LABO（リバブラボ）

※ リーダー：日出町 財津さん

※ 副リーダー：豊後大野市 尾石さん

	自治体	所属	名前	読み仮名
1	大分市	契約監理課	大司 朋央	オオジ トモアキ
2	別府市	秘書広報課	立石 航大	タテイシ コウタ
3	臼杵市	環境課	高橋 佳祐	タカハシ ケイスケ
4	津久見市	健康推進課	丸岡 慧	マルオカ サトシ
5	竹田市	久住支所産業建設係	岩本 哲尚	イワモト テツヒサ
6	豊後大野市	まちづくり推進課	尾石 直子	オイシ ナオコ
7	由布市	都市景観推進課	麻生 美すず	アソウ ミスズ
8	日出町	上下水道課	財津 良平	ザイツ リョウヘイ

A チーム Team SALUD（チームサルー）プロフィール

リーダー



名前：舞 希
（まい のぞみ）
所属：竹田市 企画情報課
入庁年：平成23年度
自己紹介：
平成23年度に竹田市役所に入庁し、現在10年目です。商工観光課、企画情報課、文化政策課を経て、現在は企画情報課で地方創生や企業版ふるさと納税、文化行政等を担当しています。人口減少に伴い行政のマンパワーも減少していくなかで、広域連携による課題やマンパワーの整理・集約、効率的な政策に関心があり、応募しました。

副リーダー



氏名：渡邊 康成
（わたなべ やすなり）
所属：別府市 保険年金課
入庁年：平成22年度
自己紹介：
入庁時は高齢者福祉課に配属され、政策推進課、保険年金課と異動して現在11年目（現課5年目）となります。単独市の各課横断的な思考や方法を模索する上でも、広域都市圏の市町での事業実施は有用に感じ参加しました。



名前：津田 惇樹
（つだ じゅんき）
所属：大分市 土木管理課
入庁年：平成29年度
自己紹介：
平成29年度に大分市役所に入庁し、土木管理課に配属され、現在4年目となります。これまで、市道の占有等に関する業務に携わってきました。未来創造塾では、他市町の職員との交流や、ゼロからの政策立案に魅力を感じ、応募を決意しました。



名前：佐藤 瞳海
（さとう ひとみ）
所属：臼杵市 おもてなし観光課
入庁年：平成27年度
自己紹介：
平成27年度に臼杵市役所に入庁し、現在6年目となります。これまで、移住定住施策・空き家バンク業務に携わってきました。未来創造塾では、それぞれの市町村が抱えている課題の共有や政策の提案、他市町村の職員との交流に魅力を感じて応募をしました。



名前：佐々木 健太
（ささき けんた）
所属：津久見市 社会福祉課
入庁年：平成26年度
自己紹介：
平成26年度に入庁し、現在7年目となります。これまでは、社会教育、移住・定住などの業務に携わり、今年度から現在の所属にて子育て支援に関する業務を担当しています。業務上で政策立案に携わったことはなかったため、不安はありましたが、前向きに捉え参加しました。



名前：小代 洋介
（おじろ ようすけ）
所属：豊後大野市 総務課
入庁年：平成19年度
自己紹介：
平成19年度に豊後大野市役所に入庁しました。これまで税務、支所、議会事務局を経験しました。未来創造塾の話を総務課長からお聞きし、応募を決意しました。



名前：明石 剣斗
（あかし けんとう）
所属：由布市 総合政策課
入庁年：平成26年度
自己紹介：
平成26年度に由布市役所に入庁し、今年度で7年目となります。現在、総合政策課へ所属し、情報統計係として業務に携わっております。他市町の職員の皆さんと政策研究を行うことは、学び・交流の場として、とても有意義なものになると感じ、未来創造塾へ応募させていただきました。



名前：小石 剛之
（こいし たけし）
所属：日出町 都市建設課
入庁年：平成21年度
自己紹介：
平成21年度に日出町役場に入庁し、現在12年目になります。これまで主に都市計画に関する業務に携わってきました。未来創造塾には他市の職員との交流や普段の業務では経験できないことを経験し、見分を広め、自身の成長につなげたいと考え応募しました。

※本人の意向により顔写真を載せていない方もいます。

Bチーム Livab LABO（リバブラボ）プロフィール

リーダー



名前：財津 良平
（ざいつ りょうへい）
所属：日出町 上下水道課
入庁年：平成20年度
自己紹介：
平成20年度に日出町役場に入庁し、現在13年目になります。入庁後、税務課、財政課、総務課を経験しました。平成29年度から上下水道課となり、現在4年目です。未来創造塾は、政策推進課からの推薦により参加しました。

副リーダー



名前：尾石 直子
（おishi なおこ）
所属：豊後大野市 まちづくり推進課
入庁年：平成18年度
自己紹介：
平成18年度に入庁し、福祉、年金、財政、税務部局に配属された後、令和元年度にまちづくり推進課に異動となりました。地域の課題について広域で共有できるような機会は少なく、研鑽を積む為、応募させていただきました。



名前：大司 朋央
（おおじ ともあき）
所属：大分市 契約監理課
入庁年：平成28年度
自己紹介：
平成28年度に大分市役所に入庁し、現在5年目になります。入庁後、最初の配属は障害福祉課で3年間、障がい者の支援業務に携わりました。その後、令和元年度に契約監理課に異動となり、現在2年目を迎えています。これまで政策立案をする機会が少なく、未来創造塾の取組により、さらなる成長につながると考え応募に至りました。



名前：立石 航大
（たていし こうた）
所属：別府市 秘書広報課
入庁年：平成29年度
自己紹介：
別府市役所に入庁し、現在で4年目になります。最初の配属はひと・くらし支援課で約2年間、ケースワーカー業務に携わり、その後、令和元年度に秘書広報課に異動となり、現在2年目を迎えています。政策立案を行い、実行されるプロセスを体験できる貴重な機会であり、自身の成長と同志と知り合えるチャンスだと考え応募しました。



名前：高橋 佳祐
（たかはし けいすけ）
所属：臼杵市 環境課
入庁年：平成26年度
自己紹介：
入庁後は税務課で3年間収納業務に従事した後、災害時相互援助協定に基づいて宮城県気仙沼市に派遣され、税務課で2年間課税業務に従事しました。現在は環境課2年目で、一般廃棄物や地球温暖化対策の事務を担当しています。政策形成に携わりたいとの理由で入庁した為、未来創造塾を絶好の学びの機会と考え、入塾を希望しました。



名前：丸岡 慧
（まるおか さとし）
所属：津久見市 健康推進課
入庁年度：平成25年度
自己紹介：
平成25年度に入庁し、税務課課税係を4年間経験し、現在の部署では主に保険税の賦課を担当しています。人事係に声をかけていただき、参加してみました。



名前：岩本 哲尚
（いわもと てつひさ）
所属：竹田市 久住支所産業建設係
入庁年：平成29年度
自己紹介：
平成29年度に竹田市役所に入庁し、現在4年目になります。入庁後、久住支所に配属され、戸籍や保険等の窓口業務に携わりました。その後農政課に異動後、再び久住支所に異動し、現在窓口業務以外にも久住地域の観光・農業等の事業系の業務に携っています。かねてから政策立案をしてみたいという想いがあり、塾生に応募しました。



名前：麻生 美すず
（あそう みすず）
所属：由布市 都市景観推進課
入庁年：平成29年度
自己紹介：
平成29年度に由布市役所に入庁し、現在4年目になります。入庁後は建築工事の設計業務や都市計画に関する業務に携わりました。未来創造塾を通して、広域圏内の交流や政策立案ができることに魅力を感じたので応募に至りました。

※本人の意向により顔写真を載せていない方もいます。

「第1期未来創造塾」を振り返って ①

長期間に及ぶ調査・研究が終わり、塾生から現在の心境や未来創造塾の取組みを振り返り、率直な感想を聞かせてもらいました。事務局（大分市企画課）に対する要望や期待、第2期未来創造塾の塾生に向けたコメント等まとめています。

- ・自分が全く知らなかった国の補助金、交付税に詳しい班員がいたり、やたら医療制度に詳しい人がいたり自分の知らないことや話を多く聞ける機会にもなります。塾生一人一人様々なバックグラウンドがある中、皆で一つの目標に向かって頭を使うことは非常に楽しかったです。いかに自分の知識、経験が不足しているかを再認識できる場でもありました。
- ・2期生の皆様には、行政しか行えないことを行政が行える方法で、斬新な切り口で有益な事業提案をしていただければと思います。
- ・各市町村の様々な施策の取り組み状況や今後の仕事でも相談や頼りになる仲間ができる良い機会なので、不安なことも自分の業務などもあるかもしれませんが楽しんで取り組んでほしいです。
- ・各自治体から塾生を集め広域的な政策を検討するのではなく、各自治体で若年層職員による研究チームを募り、広域的な観点での政策を検討させ、その中から広域圏（大分市）が認めた事業に予算を振り分ける形に変更してはどうでしょうか。広域圏という枠は今より見えにくくなりますが、全体的な視点で見た時は広域圏内にとってより価値のある政策が生まれると思います。
- ・退職まで頼りにできそうな人脈が生まれたことは大変貴重な経験になりました。よりよい政策提案に向けて頑張ってください！
- ・第1期の塾生については、コロナ等の関係もあり、塾生のみで提案をブラッシュアップする時間が多かったです。次回は、関係機関や講師の方、各市町の部会等と連携した意見交換ができると、より良い提案に繋がるのではないかと感じました。
- ・他市町の職員と交流を行うことで、色々と刺激を受けました。また、広域圏としてのスケールメリットを意識することができたので、普段の業務にも活かしていけたらいいと思います。2期生に向けたものとしては、月に1回程度の会議等があり、普段の業務に加えての活動が増えるため、大変であると思うが、他市町との意見交換や知り合い等も増える等、それ以上にためになる部分があると思うので積極的な参加をしてほしいです。

「第1期未来創造塾」を振り返って ②

- ・ 行政職員として、経験できる部署・分野は限られると思います。その中で、未来創造塾で自分自身が知らない分野を研究することは、その分野の知識が身につくだけでなく、他の分野にも応用できる場面もあろうかと思います。また、どんな分野を研究するにしても、班内や事務局との調整が必要となり、そのことから得られる経験も大きいと思います。

未来創造塾での取組は、必ず今後の役所人生で非常に役に立つと思うので頑張ってください。

- ・ 各市町の垣根を越えて政策を練っていく過程で、同僚とはちがう同年代の仲間ができたことは非常によかったし、一生の財産になると思います。第2期は1期よりもハードルが上がるとは思います。が、臆することなくチャレンジしてください。

- ・ より内容の充実した政策提案書を行うために、政策提案をする分野を指定したうえで、2期生を募集することを検討されてはいかがでしょうか。共通の専門性を持った塾生が議論することで、より現状に即した政策提案ができるのではないのでしょうか。

また、各市町を知るためにも、2期生には全市町を訪れる機会を持っていただきたいと思います。今後は、卒塾生も参加できる研修や交流の場を設けていただくと幸いです。

- ・ 各市町での規模が違うのに比例して職員数の規模も違い、普段の仕事をしながら未来塾の政策を考えるのは負担が大きかったです。また、新型コロナの影響で普段の業務が通常よりも増えている職場もあり、2期生に向けては、自分の負担にならない範囲で参加すればいいと思います。

- ・ 大学生の政策研究を聞いて、塾生が実現可能な政策にカスタマイズするといったような「未来創造塾×〇〇大学」のようなコラボもありではないかと考えます。

- ・ 各市町を越えて、課題について議論を交わすというなかなか経験できない機会をいただけたことは大変貴重な体験でした。また、各市町に回って交流を深めることができ、とても楽しい経験をさせていただきました。第2期生の方々にも、ぜひ他市町の方々との交流の場として楽しんでいただきたいのと、自分達のしてみたいことを遠慮せずに提案していただければと思います。

- ・ 未来創造塾を通して他市町の職員と交流ができたことが一番よかったことだと思います。

このような情勢でなければ先進地への視察や企業へ訪問することができたと思うので、2期生は研修や講義などを通して、活動の幅を広げてほしいと思います。

大分都市広域圏ホームページ

大分都市広域圏では、専用のホームページを開設しています。

「未来創造塾」の取組に加え、大分都市広域圏の取組みや各市町のPR動画等、圏域経済の活性化に資する魅力ある情報発信に努めていますので、是非ご覧下さい。

大分都市広域圏

検索

【URL】 <http://www.oita-kouikiken.jp/>

クリック



大分都市広域圏

ENHANCED BY Google

文字サイズ 小 / 標準 / 大 背景色 白 黒 青

ホーム

大分都市広域圏とは

大分都市広域圏の魅力

連携取組の紹介

市町からのPR動画

人と地域を未来につなぐ大分都市広域圏

イベント

食

観光

移住・定住

日出町

別府市

由布市

竹田市

大分市

臼杵市

津久見市

豊後大野市

大分市

別府市

臼杵市

津久見市

竹田市

豊後大野市

由布市

日出町

大分都市広域圏 政策研究チーム「未来創造塾」設置要綱

(設置)

第1条 大分都市広域圏ビジョンに掲げる基本連携項目「人材育成・交流」の推進並びに広域的な課題に関する総合的な調査研究及び施策の提案を行うため、圏域を構成する自治体の若手職員による政策研究チーム「未来創造塾」（以下「政策研究チーム」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 政策研究チームは、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 広域的な課題に関する総合的な調査研究に関すること。
- (2) 広域的な課題に関する施策の提案に関すること。
- (3) その他政策研究チームの目的を達成するために必要な事項。

(組織)

第3条 政策研究チームは、構成員16名程度をもって組織する。

2 構成員は、大分都市広域圏推進会議の会長及び委員がその補助職員（概ね35歳以下の者に限る。）のうちから指名するものとする。

3 前項の指名の期間は、2年を1期間とする。

4 構成員の選出方法は、大分都市広域圏推進会議の会長及び委員の判断に委ねるものとする。

5 政策研究チームにリーダー及び副リーダーを置き、構成員の互選により選出する。

6 リーダーは、政策研究チームを代表する。

7 副リーダーは、リーダーを補佐し、リーダーに事故があるとき、又はリーダーが欠けたときは、その職務を代理する。

(総括等)

第4条 政策研究チームを統括するとともに構成員を指揮監督するため、塾長を配置する。

2 塾長は、大分都市広域圏推進会議の幹事長が指名する者をもって充てる。

(報告等)

第5条 政策研究チームの推進にあたり、リーダーは塾長に対して定期的に報告を行い、必要に応じて塾長の指示を受けるものとする。

(中間報告及び施策提案)

第6条 政策研究チームにおける中間報告及び施策の提案は、大分都市広域圏推進会議の会議で行うものとする。

(庶務)

第7条 政策研究チームの庶務は、大分市企画部企画課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、政策研究チームの運営に関し必要な事項は、塾長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

～ メモ ～

大分都市広域圏 政策研究チーム「未来創造塾」 2021 政策提案報告書

令和3年3月発行

編集・発行 大分市 企画部 企画課 広域連携推進室

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号

T E L 097-537-5603

F A X 097-534-6182

E-m a i l kouiki@city.oita.oita.jp